

ランドマーク Land Mark

日本最古の現役下水道

大阪市・神戸市

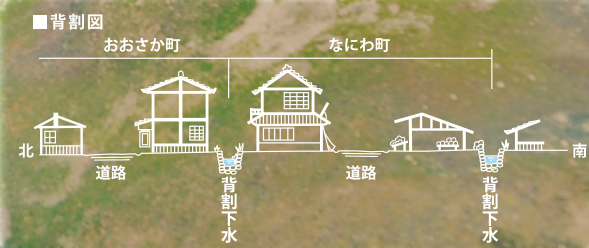
太閤下水/大阪市中央区 太閤秀吉が原型を築いた石積みの下水溝

大阪市内の南大江小学校の地下に今もとうとうと水が流れる石積みの暗渠^{あんきょ}*1。
天正11年(1583年)から始まった豊臣秀吉による大阪城築城の際に原型が造られたことから太閤下水と言われる日本最古の現役下水道です*2。

大阪は淀川と大和川のデルタ地帯に出来た低湿な土地であったため、汚水、雨水の排除は古からの課題でした。
そこで秀吉は道路整備と並行して、町家からの下水を排水する下水溝を建設したのです。
城下町は大阪城に向かう東西道を軸に基盤の目に区切られ、道路に面した建物の背中あわせに下水溝が掘られたので“背割り下水”とも呼ばれます。

その後の大阪の町の拡張・整備に伴い、下水も建設・改良を重ね
大阪市制が発足した明治22年(1889年)には、
市内の下水の総延長はおよそ350キロメートルに拡大。
道路と下水道を備えたまちづくりのプランは、
日本の都市計画における画期的なアイデアとして高い評価を受けています。

*1 上部に蓋があり、地下に設ける等外から見えないようにした水路。
*2 現在使われている約20キロメートルのうち、将来にわたって保存可能な約7キロメートルが平成18年に大阪市の指定史跡に指定されました。



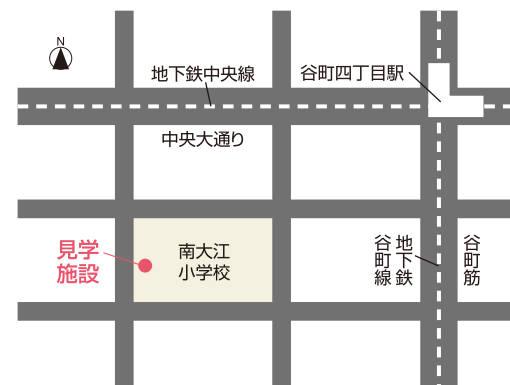
太閤(背割り)下水内部



見学用地下施設



太閤(背割り)下水見学施設 地上から覗き込むこともできる



旧・居留地下水渠/神戸市中央区 英国人技術者が設計した 日本最古の西洋式下水道

明治5年頃、神戸外国人居留地の都市計画の一環として
イギリス人技術者J.W.ハートにより設計・施工された煉瓦造りの下水道です。
神戸大丸百貨店東側には全体の約5%にあたる約90メートルが現存し、
今も雨水管渠として使われています。
横浜外国人居留地と並んでわが国最古の近代下水道といわれており、
当時未開の地であった旧・居留地が、
近代都市へ発展する上で欠かせないものでした。

写真：神戸市建設局提供



100万人の市民現場見学会 大阪駅改良工事

社団法人日本建設業連合会では、広い層の人々に土木や社会資本整備が人々の暮らしと直結していることへのご理解と親しみを感じていただくため、引き続き様々な建設現場の見学会を実施しています。
今回の工事見学会は、将来の技術者を目指す工業高等専門学校(国産院)の学生さんら約50名が、平成16年より7年間を費やしてようやく完成した大阪駅改良工事の現場を関心を持って見て回られ、建設業のイメージを大いに実感していただきました。

